ハカセの告白

ハカセ	（立ち上がる） ・・・聞いて下さい。 私は皆さんに伝えていないことがある。 人生の後悔。先に研究不正のお話をしました。
	事件が新聞に掲載された結果、小さな大学の街に私達はいられなくなってしまった。 そして私達は夜逃げ同然に街から去ったのです。 喧嘩の絶えなくなった私と妻は離婚しました。 当時中学生だった息子は・・・妻の元を選びました。 心に深い傷を負った息子は毎日を無気力に過ごすようになり、その後、大学進学の道まで断念した。 父のような学者になりたいと夢を語っていた息子は、もうどこにもいません。
かのん	そんな・・・
ハカセ	自分のエゴのためにあらゆるものを捻じ曲げた結果、たった一人の息子を苦しめてしまった。 私の人生の本当の後悔は、自分ではなく、息子を幸せに出来なかったことなんです。 （肩を落とす。座る。）
太宰	うぅ・・・。
ハカセ	そうか。
五右衛門	自分が情けなくて。
アゲハ	全部話してすっきりすればいいのさ。今日が最後の日なんだ。
ハカセ	（首を振り、ため息をつく。） すいません。本当に。